

No Graffiti!

岡山中心市街地
落書き調査隊

NEWS LETTER



落書き多発エリア警報

岡山市本町 奉還町 西大寺

放置しているとあっという間に街を覆いつくします。自治会や商店会で見回りをしてみ、対策を考えてください。

落書き犯に「懲役刑」の判例

落書き犯罪は、一人の犯人が数千万円から億単位の被害を作り出す重犯であり、昨年最高裁では懲役刑を科す判例が出ました。(建造物損壊罪が適用)その後、岡山県でも同様の適用が行われており、厳罰化が進んでいます。市民の落書き対策を少しでも支えようという、司法の努力です。落書き犯が出没しているエリアをみかけたら、また、落書きを教唆煽動している大人や施設を見つけたら、個人で対処せず110番通報して下さい。先に警察に伝えるほうが、現行犯検挙率も高まります。

「グラフィティ・アート」に要注意

「グラフィティ」(時にはグラフ)という呼称に要注意です。他人の壁に許可無く油性のスプレー塗料を吹き付ける破壊的犯罪行為の英訳が「graffiti=グラフィティ」です。美術館やイベント、店舗、一部媒体で、これを煽る行為を見かけたら抗議し、中止させてください。もちろん「グラフィックアート」や、壁画(Wall Painting)とは無縁の言葉です。日本では横文字の紛らわしさを逆手にとって明白な犯罪行為を「アート」と強弁するものが闊歩しています。今後は実態がわかるにつれ幫助罪が適用されていくでしょう。

落書きの定義

社会問題としての「落書き」

犯行年齢16歳～50歳代位まで 深夜1時～5時。油性スプレーペンキ、マーカー、強粘着シール等を使用。自然には消えない。一人で数千～数万個/年。違法性を自覚しているがゆえに、スリル中毒化しやめられなくなる一部自称「アーティスト」や大人が商材とする。「グラフィティ・アート」なる扇動イベントもある。



社会問題とは言えない「落書き」

小学生が昼間、思いつきで家のふすまや校内に、チョークや鉛筆などで自然に消える。自然に脱皮。ただこれも放置すると「だらけ」になるし、いじめに悪用され時に問題になる場合もある。昔の校長先生は朝出勤したら、校内の落書きを消すのが日課だったという。そういう小さなことが大切ですね。



自分たちの街は、自分たちで守ろう。

岡山中心市街地

落書き調査隊

ニュースレター

since.2002.3.17

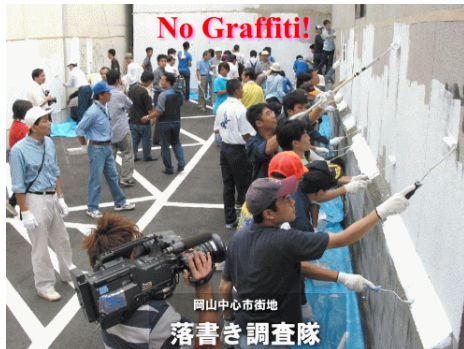
The Team of Researching Graffiti at the Central area in Okayama City

Copyright(C) The Team of Researching graffiti at the Central area in Okayama City All right Reserved

<http://ww3.tiki.ne.jp/~jcn-o/rakugakicyousatai-top.htm> クリック!

サイトは本年11月18日より作成開始したばかりですので、まだ構築中です。ゆっくりやりますので気長に応援してくださいね。

2008-1



落書き行為は重損壊犯罪

落書き(graffiti グラフィティ)を放置していると、地域の自治能力が探られ、犯罪グループが忍び寄ります。街の民度も低く見られます。経済活動も衰退し、更なる被害を受けるのは結局、住民自身です。

「落書き」は、かつて、かわいげのある言葉でした。しかし、私たちが問題にしている落書きはまったく別物です。

(左下説明イラストを参照)

少数の成人グループが、大量の油性のスプレーペンキを他人の壁に吹き付け破壊する。これが長年続き、しかも、この落書きは自然に消えないため、岡山市内中心部でもかつて数千箇所の落書きが書かれ、今現在も増え続けています。犯人一人当たりで大規模な被害を生み出す建造物重損壊行為です。内容は、ワンパターンのサイン行為。詳細説明は省きますが、これが重犯罪の温床になるのです。



落書き放置は、凶悪犯罪誘致の広告塔。

落書きの放置と蔓延は、都市管理能力が低下し、住民自治が崩れかけていることの表れで、そういう現状が結果的に犯罪を通じて可視化されているのが落書きであり、それに目ざとく注目するのが拉致・誘拐や暴行・殺人など凶悪犯罪者です。犯罪者は落書き

「...物理的に実行行為を促進する行為(物理的補助)はもとより、行為者を励まし犯意を強化するなど心理的に実行行為を促進した場合(精神的補助)も、補助となる。」「補助行為を行った者は、刑犯(補助犯)は、狭義の共犯の一種である。」「出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』「補助」より抜粋

や、暴走族や、暴力団や、ゴミやそういう所にばかり寄って来ます。落書き犯自身も窃盗や麻薬犯と重なることがあります。

ニューヨークのジュリアーニ市長は「犯罪の撲滅」を公約に当選し、年間2700件も発生していた殺人事件を70%減らしたといっています。そのため地下鉄や街にはびこる落書きを徹底的に消去し、落書き犯や、ゆすり

たり犯を厳しく検挙。軽犯罪から丹念に摘発していったのです。落書きをファッションのように勘違いしている人は20年以上前のアメリカの犯罪都市の断片を真似してただけです。

今の落書きが、いかに時代遅れで格好の悪い行為なのか、私たちがまず認識を改め、毅然とした態度を示すことが大切です。大人のほうが軽しく「上手い」「下手」などと評論していると、とんでもない事態になります。事実、落書き多発地域に比例するように、強盗や誘拐など重犯罪が多発し、警察も困っています。

落書きは、心は幼児の若者が、大人の顔をうかがいながら続けている行為です。昔は地域でも大人と子どもの一対一の教育なりつけというものがありました。今はそれが広域化し、お互い相手の顔が見えません。住民の側も広域で連携、だめなものだめと、はっきり社会的な活動のなかでメッセージを示さなければ、犯人にも届きません。

落書き犯罪には毅然たる態度こそ有効

落書き調査隊は、2002年初頭、現場をフィールドワークの手法で徹底的に観察、特性を調査・分析し、同年春には基本対策方針を策定し、すぐさま実践に移行しました。更に、広域のヒアリング調査から、落書き実行犯のプロファイリングも完了。一つかいたら、その周りに押し寄せる「めだか傾向」であり、行動特性が没個性を象徴。捕まると「アーティスト」と自称したり「違法だと知らなかった」というが、嘘です。「自分の家にかかれるのはイヤ」と公言する自己中



重犯罪には必ず前兆があります。割れ窓の危険は気がついたあなたが周囲へ知らせましょう。**落書き犯は違法性を明確に自覚**しており、すべての行為を逃亡前提で綿密に組み立てています。詳細は省きますが**落書き犯の基本思想は**、彼ら自身が好んで言う「Vandalism」(公共物及び既存芸術品への破壊汚損行為を楽しんでおり、「自己表現」欲求ではありません。後者は「落書き賛美評論家」が現役犯の美化のため使う巧妙なレトリックです。これは重要なポイントで注意が必要となるです。犯人は違法破壊行為というスリルそのものにとりつかれ、中毒化して犯行を繰り返すのです。米国NY市警本部の署長クラスをキャップとして構成される、落書き犯罪専門取り締まり班は「ヴァンダル・スクワッド」と呼ばれています。**泣き寝入りしやすい中小店舗や高齢者の物件に集中攻撃**するのが落書き犯のずる賢い所です。

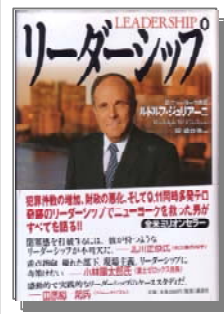


←この様な「タグ」(「しるし」の意)が増え始めたら要注意。放置するとまたたく間に広がり、お手上げ状態になります。タグイングが継続して行われている場合は、犯人が定期的に来ている場合があるので、警察に通報して下さい。また**落書きを店舗内で煽っている**行為を発見したら、犯罪教唆(幫助罪)の疑いがあるので個人で対応せず、110番通報で警察へ情報提供してください。

個人家庭の防犯にはカメラ、センサーライト等の工夫も大切。検挙用の証拠収集カメラは犯人に絶対にわからぬよう設置するのがポイントです。でも地域の結束はもっと大切です。落書き消しは、意外に楽しいです。一度小さな壁で、自治会など地域ぐるみでやってみてください。

NYで実証された「割れ窓理論」 Theory of Broken Windows

NYはかつて年間2700件の殺人事件が発生する重犯罪都市だった。この困難な問題に立ち向かうため、犯罪発生過程を研究したところ、重犯罪の前兆には落書きやゴミ不法投棄など軽微な犯罪の蓄積があることが分かった。窓ガラスを割った車両を放置してみると、従来治安の良かった高級住宅地にも重犯罪者が誘引されることが実証された。NYのジュリアーニ元市長はこの理論を採用、地下鉄や街の落書きを徹底して消去し、街頭犯罪を地域と連携して厳しく取り締まった。その努力の結果犯罪件数が70%も激減した。



現在NY地下鉄は警察が定期的に巡回し、落書きもなく、大変きれいだである。



心的性格。中産階級が多く景気や生活水準とは無関係。大人の側に落書きを面白がる傾向や若者のエネルギーの発露と見るべきだと思いきこんでいる人が多いこと。(実際には、犯人は薬物とかかわり、人種差別、部落差別、窃盗犯暗号などに行き着いている。ネット中傷もバーチャル落書き)おまけに、動機は様々ですが、その背景に落書き犯罪を興味本位で持ち上げる大人、「グラフィティ」を「アート」と言いく

るめる評論家があり、犯罪を正当化する理屈付けが横行していること。中には落書き行為を定期的にイベントで体験させ、犯人を「製造」している店舗(※1)まであること等々、根深い背景があることがわかってきました。

(※1 ごくごく一部の特異な店舗ですが、教唆煽動者は安全圏で、検挙されるのは客の青少年、という理不尽がまかり通っています。若者の間やその方面の媒体では結構、名が知られている店舗だったりするので、表裏二面性に要注意です。その周りには落書きが顕著に氾濫します。個人で対処せず、地域と警察が連携して対応しましょう)

「自己責任」は基本、だが大規模蔓延の場合には地域対処も必要。

そして、なぜ、落書きが消されずに残るのか。これが問題です。これについては地域・都市問題があり、長くなりますので詳細は省きます。結論的には、地域教育力の再生と都市管理能力の根幹である住民自治意識の再構築が大切だと考えました。そのためには、住民の精神的結束を取り戻さなければなりません。地域住民による落書き消去活動の取組みは、住民・市民が、傷ついた自分達の街を改めて見直し、自分達が汗を流して修復することで、自治意識を取り戻す。そのことで落書き犯とそのギャラリーにも意志を示す、という考えの具現化です。とりわけ子ども達は楽しく参加しており、人づくり教育の実践授業となっています。



岡山市街地での青少年団体による消去活動

効果はあがっています。あとはできるだけ多くの地域で小規模でよいので、日常的に取組まれることです。もちろん、落書きは、被害物件所有者が素早く消すことが原則です。が、あまりに地域に落書きが蔓延すると単純な自己責任論ではムラが発生し、簡単に解決できません。深夜匿名での卑劣な犯行ゆえ、消しても消しても繰り返し再犯され、消す意欲を失っている人が多いのです。



犯人への年間200時間の落書き消去更正教育を提唱します。(米国で効果証明済み)

報道によると、犯人に、年間最低200時間の落書き消去をさせる「犯罪者更正教育プログラム」が米国で大きな成果を上げています。だから欧米で活動しにくくなった現役の落書き犯がわざわざ日本へ来て、「グラフィティ評論家」などと組み、自己の犯罪行為をメディアにして販売したり、時には公立美術館や媒体を利用して、落書きキャンペーンを仕掛けたりします。また日本では、犯人が仮に逮捕されても、膨大な量の犯行の痕跡は放置されています。全国で落書きが蔓延している背景にはこういう問題もあるのです。

原因はさておき、落書きは、誰かが消さなくては、無くなりません。

ただ、原因だけをいろいろ議論しても落書きはなくなりません。また、どこかの機関だけに任せおけば解決するわけでもありません。前述の実態からみても特効薬は無いのです。社会各層の意識改革とそれを可能にする住民パワーを結集した実践活動が必要なのです。規律と活気ある地域社会を取り戻すためにも、ここはひとつ、みんなが手を携えて、励ましあい、被害の実態を良く知り、被害者の気持ちを想像し、現場の問題と取り組もうではありませんか。ただ、落書き消しは「やってみると意外に楽しい」と好評です。隊のモットーは「謙虚に、無理せず、楽しく、やりたいときに、やれるだけ」。この力でも落書きを面白く楽しく消してみましよう。

「落書き一斉消去方式」とは (大規模被害からの脱出方法)

1. 数ブロック程度の地域をまとめた数の市民により一度に短時間で消し、その事実をマスコミ等で広く周知する。これを繰り返していく。
2. 対象エリア内の落書きは、軽微なタグから大型のものまで可能な限り、残らず消去し、落書きが全くない状態をめざして、いっせいに原状回復する。
3. 上塗り塗料をツートンカラーの同系異色で塗布し、市民の作業の証を街に残す。(いったんリセットされたあとでも油断せず、小規模地域単位で対処していきましょう)

落書き被害にあったら、軽微なものでも、すぐに最寄の警察署へ被害届けを出しましょう。快く対応して頂けます。そのあとは早く消すことが大切です。自分の家の壁色と同じスプレーペンキ缶や或いは落書き消しクリーナー(※1)などを事前に用意しておき、気分いたらすぐの上塗りすることです。上塗りすると色が変わりますが、そのほうが後から来る犯人に住民の意思が伝わって、やりにくする効果が働きます。ただ絶対大丈夫ではないので、何度も繰り返す必要はあります。(※1)小さい物ならコンビニによく置いてあります。